

会 議 記 録			
会議の名称	<b>総務文教常任委員会</b>		会議場所 全員協議会室 担当職員 数井
日 時	令和4年11月9日（水曜日）	開 議 閉 議	午後1時30分 午後3時56分
出席委員	◎浅田 ○松山 三上 山本 木村 齊藤 石野		
執行機関 出席者	垣見市長公室長、竹村人事課長、八木人事課人事係長、的場人事課給与係長 田中生涯学習部長、元古人権啓発課長、小塩文化国際課長、西出人権啓発課副課長 岡田文化国際課副課長 石田総務部長、牧野総務課長、藤本自治防災課長、岩本総務課総務係長 片山教育部長、久保教育部次長、岡田教育総務課長、内藤学校教育課長、 樋口社会教育課長、谷口みらい教育リサーチセンター所長 岩崎歴史文化財課長、阿比留教育総務課副課長兼総務係事務取扱 八木歴史文化財課副課長兼資料館企画係長事務取扱 森社会教育課放課後児童係長		
事務局	井上事務局長、数井事務局次長		
傍聴	可	市民 1名	報道関係者 0名 議員 0名（ ）

## 会 議 の 概 要

13:30

### 1 開議

#### 【事務局日程説明】

### 2 案件

#### (1) 行政報告

13:31～

#### 【市長公室】

○職員の定年引上げに伴う関係条例の整備について

(市長公室 入室)

市長公室 あいさつ

#### 『職員の定年引上げに伴う関係条例の整備について』

人事課長 説明

13:41

#### 《質疑》

<齊藤委員>

法律で決められたことなので、しっかりと移行事務を願う。

(質疑終了)

13:42

(市長公室 退室)

13:43～

【生涯学習部】

○東部児童館・東部文化センター改修整備工事について

○かめおか霧の芸術祭に係るクラウドファンディングの実施について

(生涯学習部 入室)

生涯学習部長 あいさつ

『東部児童館・東部文化センター改修整備工事について』

人権啓発課長 説明

13:47

《質疑》

<松山副委員長>

東部児童館の増築工事は国庫交付金の繰越しができないため、令和5年度に未着工部分の工事を新たに発注して施工するとのことだが、国庫交付金は当初の予定どおり満額交付されるのか。

<人権啓発課長>

京都府と調整しており、満額交付される。今年度実施分は、該当する交付金を受領し、残額は令和5年度に再度申請して受領することとなる。

<松山副委員長>

契約を一度リセットして進めるということか。

<人権啓発課長>

今年度実施分は令和3年度からの繰越し事業であり、令和5年度への繰越しはできない。今年度と来年度で工事を二つに分け、それぞれ交付金を受けることになる。

<生涯学習部長>

一般的な流れでは、工事契約を締結し、年度内に完了できなければ、明許繰越しを設定して翌年度へ繰り越してきたところであるが、既に一度繰越しをしており、令和4年度から5年度への再繰越しはできないため、今年度では基礎工事をもって完了とし、来年度予算で入札、契約を新たに実施し、本体工事を行う手法をとったものである。

(質疑終了)

13:53

『かめおか霧の芸術祭に係るクラウドファンディングの実施について』

文化国際課長 説明

13:56

《質疑》

<齊藤委員>

かめおか霧の芸術祭は、補助金頼りの事業となっており、展示会などの入場料や作品売買による売上げの一部を収入としていかなないと事業が続かないと考えるが、どうか。

<文化国際課長>

今年度活用している文化庁の文化芸術創造拠点形成事業補助金は、制約が厳しく、販売行為などが認められていないが、実行委員会として別の方法で収益を上げられ

るよう取り組んでいく。

<松山副委員長>

クラウドファンディングで、令和5年度から7年度まで、各年度2,000万円の目標を掲げているが、具体的な使途について説明を。

<文化国際課長>

昨年度と今年度は約2,000万円の事業費であり、内容としては、地域の芸術家の展覧会やマルシェなど、様々な事業を年間通して実施しており、現状の活動を実施していくために2,000万円の目標とした。

<松山副委員長>

2,000万円はこれまでの事業費に上乗せするのか、また、金額の詳細は。

<文化国際課長>

上乗せではなく、補助金とクラウドファンディングの寄附金とを併せた2,000万円で、例年程度の事業を実施していく予定である。金額の詳細は持ち合わせていないが、昨年度の実績であれば、決算審査時に資料を提出している。

<松山副委員長>

かめおか霧の芸術祭は、令和2年度予算審査において、これ以上経費が増額しないように、また、期間を決めて取り組むように附帯決議を出していたにもかかわらず、クラウドファンディングの実施の報告を受けて、その意図が伝わっていたのか心配している。市がこの事業を積極的に、中心になって実施していくべきものなのか、あるいは民間に任せることはできないのか、改めて判断をした上でのことか。

<文化国際課長>

第5次亀岡市総合計画に、かめおか霧の芸術祭を活用した形で、まちのにぎわいを創出していくと記載しており、現在は、かめおか霧の芸術祭×X（かけるエックス）として、展覧会などを単体で実施するのではなく、様々な部署と一緒に取り組むことを特に考え進めてきた。SDGs未来都市のモデル事業として3カ年実施をしたが、来年度から第2期としてSDGs未来都市計画を更新する予定で、そのタイトルを、かめおか霧の芸術祭×X、持続可能性を生み出すイノベーションハブとし、さらに3カ年、本事業を進めていくこととし、財源として今回の報告を行った。

<松山副委員長>

これまでの取組を検証した中で、2,000万円の事業を続けていくとの結論なのか。

<文化国際課長>

SDGs未来都市計画の実行においては、庁内で組織をつくり、指標を定めながら検証をしている。また、かめおか霧の芸術祭実行委員会でも毎月一回会議し、取組を進めている。

<齊藤委員>

せっかく実施するのであればよいものとしていただきたいが、先日の休日に市のイベントが重なって、分散して効果がなくなったと思う。その点も検証いただきたい。

<文化国際課長>

イベントがいろいろと重複していることについて、当課だけで解決できることではないが、意識して今後進める。

<木村委員>

当初に比べるとかなり内容が膨れてきていると思うが、今後の方向性は。

<文化国際課長>

経費としては、2,000万円の枠の中で、かめおか霧の芸術祭×Xということで、

アートの見せ方などを工夫し、本市を魅力的なまちとして発信し、多くの方に住んでいただけるようにしたい。

<三上委員>

かめおか霧の芸術祭をサポートするスポンサーはいるのか。

<文化国際課長>

寄附をいただける企業はない。

<三上委員>

企業とも連携し、持続可能な取組が必要と思うがどうか。

<文化国際課長>

企業との連携の必要性は感じており、検討する。

<松山副委員長>

検証をした上で2,000万円とのことだが、必要であれば3,000万円の目標を設定してもよいと思っており、やはり金額の設定根拠が不明であるが、その点についてどうか。

<文化国際課長>

金額については、議会の附帯決議を重く受け止め、その範囲の中でできることを組み立てている。

<松山副委員長>

本年度も昨年度同様に事業の報告はするのか。

<文化国際課長>

本年度事業終了後に報告する。

(質疑終了)

14:20

(生涯学習部 退室)

14:21~

**【総務部】**

○亀岡市個人情報保護法施行条例の制定について

○体験型こども防災イベント「めざせ！！こども防災士」の実施について

(総務部 入室)

総務部長 あいさつ

**『亀岡市個人情報保護法施行条例の制定について』**

総務課長 説明

14:26

**《質疑》**

<松山副委員長>

不開示情報について、詳細説明を。

<総務課長>

法律では、公務員の氏名は不開示となっているが、現行条例では開示となっているため、新条例でも開示とするものである。

(質疑終了)

14:29

## 『体験型子ども防災イベント「めざせ！！子ども防災士」の実施について』

自治防災課長 説明

14:31

### 《質疑》

<山本委員>

先着20名とあるが、多くの応募があったときはどうするのか。

<自治防災課長>

応募状況によって、臨機応変に対応する。

<山本委員>

今後、継続して実施するのか。

<自治防災課長>

日本防災士会京都府支部やNHK京都放送局の協力も得ているので、継続的に実施していきたい。

<松山副委員長>

子どもたちにとって、大変よい事業であるので、参加人数には柔軟に対応いただきたい。なお、子ども防災士認定証が交付されるとのことだが、防災士の認定証との違いは。

<自治防災課長>

子ども防災士認定証は、受講修了証であって、資格がもらえるものではない。

<松山副委員長>

各学校で実施される避難訓練や講習会など、日本防災士会京都府支部の協力を得て実施することは可能か。

<自治防災課長>

今回のイベントで、日本防災士会京都府支部とつながりができたので、ほかの防災行事との連携について検討する。

<木村委員>

学校の負担にならないように、学校で子ども防災士の内容の学習をしてはどうか。

<自治防災課長>

検討する。

(質疑終了)

14:38

(総務部 退室)

14:50～

### 【教育部】

○学校規模適正化の取組について

○放課後児童会の充実について

○「亀岡市デジタル文化資料館（仮称）」構築事業について

○サイエンスフェスタ2022の開催について

(教育部 入室)

教育部長 あいさつ

## 『学校規模適正化の取組について』

〈質疑〉

〈三上委員〉

亀岡育親学園開校に向けた各グループの構成員は。

〈教育総務課長〉

地元自治会の地域住民、PTA役員、学校関係者である。

〈三上委員〉

幹事会と検討グループのメンバーは同じか。

〈教育総務課長〉

新学校コンセプト検討グループの幹事会は地元自治会長を中心に、教育・学習環境検討グループの幹事会は教職員を中心に、通学・施設検討グループの幹事会はPTA役員を中心に、それぞれ構成している。グループ全体会には、自治会、教職員、PTA役員が4町からバランスよく入っていただいている。

〈三上委員〉

グループ全体会のメンバーは同じになるのか。

〈教育総務課長〉

同じではない。全てのグループに全ての組織からそれぞれ選出いただいている。

〈三上委員〉

一般の教職員も参画しているのか。

〈教育総務課長〉

している。

〈松山副委員長〉

グループの話合いの中で、想定外の課題が提案されたことはあるか。

〈教育総務課長〉

現在、グループ全体会を開催しているのは、新学校コンセプト検討グループと通学・施設検討グループであるが、スケジュールの確認が中心であり、まだ課題の抽出には至っていない。

〈松山副委員長〉

課題が出てきたときに議会に報告願う。

〈教育総務課長〉

適宜報告する。

〈木村委員〉

大きな問題は今のところないか。

〈教育総務課長〉

夏休みのプールの活用など想定内の意見は挙がっており、今後グループ幹事会、全体会で検討していく。

〈三上委員〉

学校が一つになることによって、加配教諭の選任などいろいろな課題があると思うが、教職員の配置権限のある京都府と調整はしているのか。

〈教育部次長〉

一般的には、市から京都府教育委員会に加配教諭の配置要望をし、3月に配置の決定がされることとなっている。既に義務教育学校の設立についての報告をしており、学校が統合される場合は、国の制度により、加配教諭が配置される見通しである。

(質疑終了)

15:05

『放課後児童会の充実について』

社会教育課長 説明

15:08

〈質疑〉

〈山本委員〉

現行の月一回の土曜日開設から、土日と祝日全てを開設するとのことだが、開始時間は8時30分からか。

〈社会教育課長〉

8時から開設する。

〈木村委員〉

19時までか。

〈社会教育課長〉

そうである。

〈木村委員〉

現在の支援員、支援補助員の数と増加しなくてはならない数、また予算規模についてはどうか。

〈社会教育課長〉

現在、支援員と支援補助員併せて155名いる。今後、支援補助員から支援員になっていただく方もおり、新規募集としては約50人を考えている。予算については積算中である。

〈木村委員〉

支援員などの負担が重く、4月の開始に向け、人員の確保が急務と思うが、その点についてはどうか。

〈社会教育課長〉

支援員などあつての放課後児童会であり、職務の改善と早急に求人を進めていきたい。

〈木村委員〉

急なことで大変だとは思いますが、必要な経費は令和5年度当初予算に計上するのか。

〈教育部長〉

11月4日締切りで対象児童の保護者にアンケートをとっており、現在集計中である。休日等の開設場所や数もアンケートの結果を踏まえ、予算などを構築していく。

〈石野委員〉

現在土曜日の利用が少ないと聞いているが、今後休日などの場所は平日と違う場所での開設となる予定か。

〈教育部長〉

開設場所は市内で数か所となる見込みであり、時間も長いため、支援員なども交代制とするなど、負担軽減に努める。

〈齊藤委員〉

休日等の開設場所は通勤しやすいところ、例えばサンガスタジアムなどに開設するなど従来の発想にとらわれずに検討願う。

〈社会教育課長〉

預けやすいところに預けられるように検討する。

〈三上委員〉

日額負担金の設定は決定したのか。

<教育部長>

現在精査中である。

<松山副委員長>

50人の人材が必要とのことで、募集についてどのような工夫をしているのか。

<社会教育課長>

インターネットや民間委託など、あらゆる方法で早急に取り組んでいく。

(質疑終了)

15:28

### 『「亀岡市デジタル文化資料館（仮称）」構築事業について』

歴史文化財課長 説明

15:29

《質疑》

<齊藤委員>

STUとは何の省略か。

<歴史文化財課長>

REALとVIRTUALの頭文字の、RとVの間のアルファベットをとったとのことである。

<松山副委員長>

10月27日に行った事業者との協議内容について詳細を。

<歴史文化財課長>

約10名の従業員が東京から来市され、スケジュールの確認と担当ごとに協議を行った。また、亀山城址や金剛寺、収蔵庫の設置場所などを案内した。

<松山副委員長>

亀岡のことを知ってもらった上で業務にあたってもらいたいと思っており、引き続き市の思いを伝えて業務を進めていただきたい。

<齊藤委員>

メタバースの中でいろいろな要素を取り込み、本市に来ていただけるように取組を願う。

(質疑終了)

15:36

### 『サイエンスフェスタ2022の開催について』

みらい教育リサーチセンター所長 説明

15:38

《質疑》

なし

(教育部 退室)

## 3 その他

### (1) 年間活動のまとめについて

<浅田委員長>

年間活動のまとめと来期の常任委員会へ申し送ることがあるか。

<松山副委員長>

今期はテーマ設定をして常任委員会として取り組んできたが、コロナ禍でもあり、で

きたこと、できなかったことがいろいろあると思う。その点について、フリートークを行い、次期へ引き継いでいきたい。

<三上委員>

中学校給食、トイレトレーラー、車中泊避難場所、デジタル文化資料館など、それぞれ市政において話題になったことであり、引き続き注視していかなくてはならないので、この2年間で議論してきたことを伝えていけばよい。

<木村委員>

中学校給食については、市長から6年後に開始と発表されたが、義務教育学校などで先行的に、18期議員の任期中にはできるように注視していただきたい。

<齊藤委員>

税金の使い方について、議案等の審査に当たって何が市民福祉の増進になるか考えてしていかなくてはならない。

<石野委員>

来期は新しいメンバーとなるから、課題を列挙してチェック機能を果たしていただくようにすればよい。

<山本委員>

来期は新しいテーマを決めていただき、引き続きチェック機能の充実を願う。

<三上委員>

現在、政策研究会でLGBTQ+をテーマに取り組んできたが、来期に政策研究会が立ち上がらない場合、あるいはテーマが変わる場合、LGBTQ+の所管は本常任委員会となるため、その旨伝えていただきたい。

<浅田委員長>

以上の意見をもとに申し送ることとする。

15:55

## (2) 次回の日程について

- ・12月12日(月)午前10時から(12月議会議案審査)

散会 15:56